

# ミステリ読書案内

2021. 11. 12 発行元

第294号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 石田衣良「炎上フェニックス」

石田衣良の『池袋ウエストゲートパーク』シリーズの最新刊『炎上フェニックス』が出た。第17弾になる。併せて、最近出た本を2冊、海堂尊と加藤実秋のミステリを取り上げて紹介することにした。

### IWGPシリーズ第17作

『池袋ウエストゲートパーク』シリーズ、1年に1冊のペースを守って出版されている。例年どおり4編が収録されている。

第一話の『P活地獄篇』は、パパ活サイトの地獄に飲み込まれそうになった女性を助ける話。第二話の『グローバルリングのぶつかり男』は、黒マスクをして女性や子どもに体当たりをして怪我を負わせる男を追い詰める話。第三話『黒鴨トリプルワーカー』は、コロナ禍で収入が激減し、副業のデリバリーに頼らざる負う得なくなった男性が巻き込まれたトラブルを解決する話。

今まさに現実の池袋で進行しているだろう出来事が描かれている。

### SNS上の「炎上」という現象

第四話はいつも通常の倍の長さの話になる。『炎上フェニックス』。タカシを通して紹介のあった依頼人は人気女子アナの中林穂乃果。ストーリーに付き纏われ、それを告発したところ相手は自殺してしまっ

た。このことがネット上に誤って取り上げられ、ホノカは純朴な青年を自殺に追いやった悪者に仕立て上げられてしまったとのこと。

SNS上の投稿者を特定することはなかなか難しいのだが、悪質な4人を見つけ出して対処を考えていく。タカシとGボーイズも協力して炎上騒ぎを終息へと結び付けていく話。現在はこのSNS絡みのトラブルが多発しており、今後も大きな問題を引き起こす可能性が高い。なんとか防止できないものか。

### 《石田衣良・IWGPシリーズ》

1. 池袋ウエストゲートパーク
2. 少年計数機
3. 電子の星
4. 骨音
5. 反自殺クラブ
6. 非正規レジスタンス
7. 灰色のピーターパン
8. Gボーイズ冬戦争
9. ドラゴンティアーズ龍涙
10. PRIDEプライド
11. 憎悪のパレード
12. 裏切りのホワイトカード
13. 西一番街ブラックバイト
14. 七つの試練
15. 絶望スクール
16. 獣たちのコロシウム
17. 炎上フェニックス
18. 赤・黒 (外伝)
19. キング誕生 (外伝)

### 海堂尊「氷獄」

2019年に角川書店から単行本で出た本が、今年7月に角川文庫に収められた。『バチスタ・シリーズ』に関連したエピソードを4篇集めた短編集である。『バチスタ・シリーズ』に愛着を持つ読者に取っては、主筋を別の角度から眺めた裏話として楽しく読むことができるだろう。田口医師の「愚痴外来」に向かう曲がりくねった通り道も懐かしい思い出みたいなものである。

表題作の『氷獄』は、心臓手術中の殺人事件として有名になった「バチスタ・スキヤンダル」に関わる裁判の話。勤続十年の会社を解雇された日高正義は司法試験に挑戦して新人弁護士としてスタートを切る。最初の仕事は国選弁護士として「バチスタ事件」の被疑者・氷室との拘置所での接見。「弁護はお断りします」との拒絶の言葉。それを乗り越えて前進するには…。日高はある提案を考え出す。医療の闇と検察司法の現状を訴えるため、被疑者との間で話を煮詰めていく。

### 加藤実秋「警視庁アウトサイダー」

9月に角川文庫から出た本。『メゾン・ド・ポリス』シリーズが完結したのを受けて、新たなシリーズがスタートしたということらしい。ますます純粋警察小説路線に近づいてきた。『インディゴ』や『スイーパーズ』などから受けていた印象からすると随分まっとうな落ち着いた内容に進んでしまった気持ちになる。それが良いことなのかどうかは今の時点では答えられない。ただ、似た雰囲気警察小説は現在の世の中にはたくさん出ているということで…。

警視庁桜町中央署のエース刑事と呼ばれている蓮見光輔が主人公の位置。その相棒が「マル暴」から飛ばされてきた架川英児。第一話あたりは、ダブルのスーツに黒のワイシャツ、サングラスに金無垢の腕時計の架川の刑事としての扱いにくさが話題の中心のように描かれているが、このシリーズの眼目は別の部分あることがわかってくる。架川が所轄に左遷されたことにも裏があるのだが、蓮見が警視庁の刑事をしていることにも深い深い裏の事情が隠されているのだ。個別の事件を解決しながらも、底には二人の刑事の抱えているものが少しずつ見え隠れする。こういう連作短編を連ねた構成は加藤実秋と得意とするパターンで、読者の興味を引き付ける有効な手段になっている。底に隠されている謎は解決されていないので、「次作以降に続く」である。